

東京都緩和ケア研修会（多職種）

多職種の役割

— 栄養士 —

目的

- 多職種での緩和ケア集合研修を充実させるために、知識を振り返り、緩和ケアの概念を理解する。
- 様々な専門性や価値観をもった、メンバー間の意見を互いに尊重できる。
- 緩和ケアにおける栄養士の役割を理解することで、よりよい緩和ケアを目指すチーム医療によるアプローチを考えることができる。

目次

- がん患者さんへの管理栄養士の関わり
(実際の業務)
 - がん患者をサポートするチーム医療と管理栄養士
 - がん治療中の栄養管理 (周術期・化学療法・放射線療法)
 - 終末期の栄養管理
- 多職種に知って欲しいこと
- まとめ

がん患者さんへの 管理栄養士の関わり

管理栄養士は術前から治療期、終末期すべてのステージでかかわることがあります。

- ✓ 栄養状態の評価
- ✓ 筋肉量維持
- ✓ 体重コントロール
- ✓ 血糖コントロール

- ✓ 摂取量維持
- ✓ 水分調整
- ✓ QOL、食事の楽しみ維持

診断

術前

術後

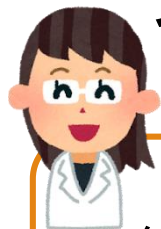
化学療法・放射線療法中

終末期

- ✓ 水分、電解質コントロール
- ✓ 体重コントロール
- ✓ 血糖コントロール
- ✓ 栄養状態維持・改善

- ✓ 水分、電解質コントロール
- ✓ 体重コントロール
- ✓ 血糖コントロール
- ✓ 栄養状態維持・改善

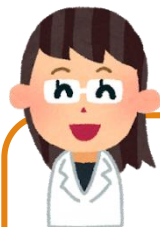
がん患者をサポートする チーム医療と管理栄養士



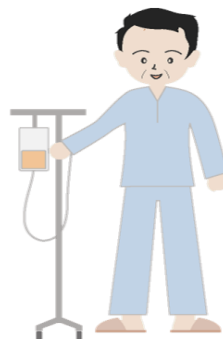
緩和ケアチーム



リンパケアチーム



周術期
サポートチーム



化学療法
サポートチーム



栄養
サポートチーム

嚥下チーム



周術期栄養管理

- ① 栄養状態の確認（体重、血液データ、体組成計）
- ② 術後食事開始時の食事指導

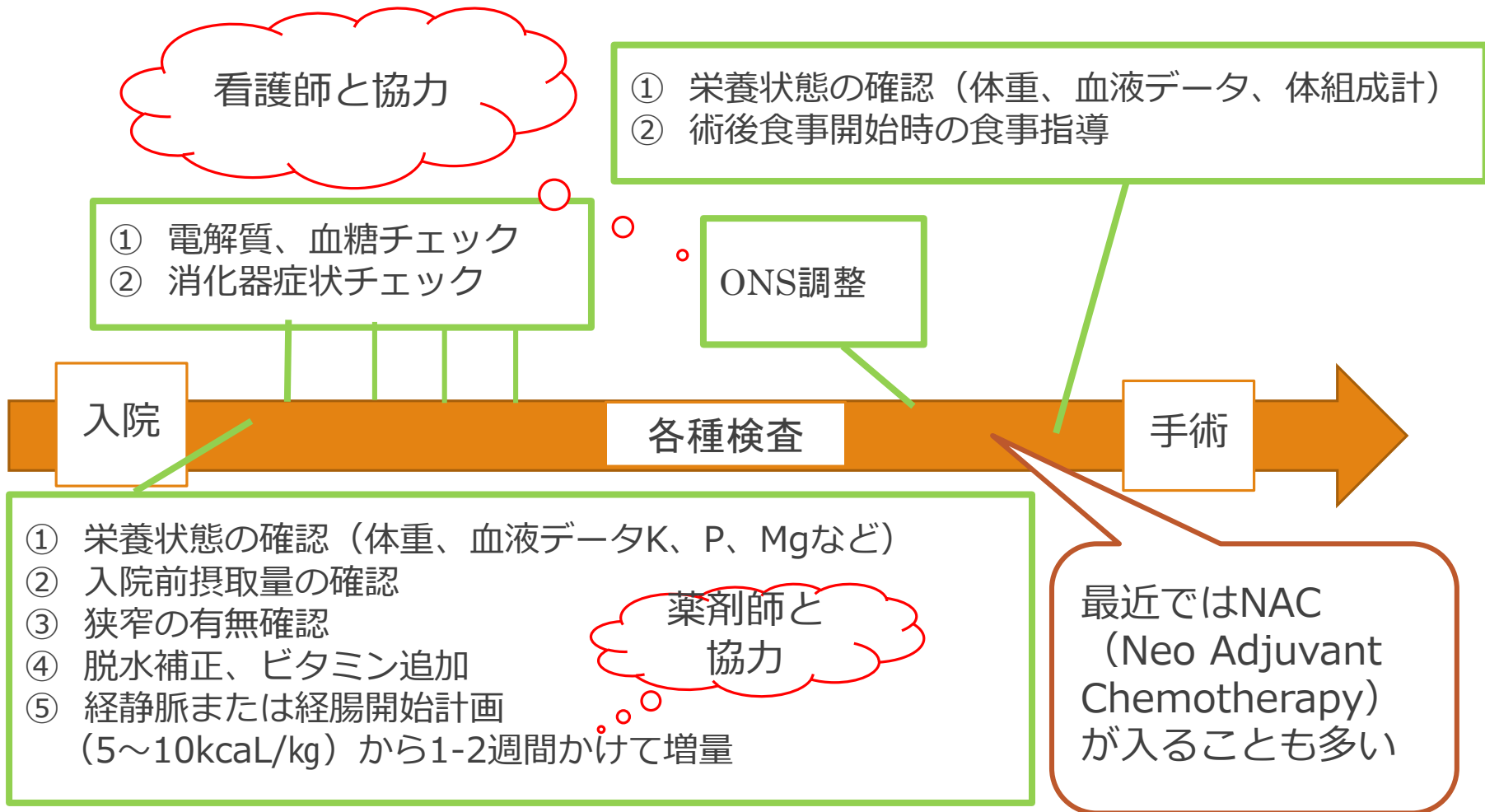


- ① 栄養状態の評価
（体重、血液データ、体組成計）
- ② 必要栄養量の算定と摂取量の確認
- ③ 不足する場合はONS※提案
- ④ 血糖コントロール不良・肥満の場合は清涼飲料水や菓子類など中止の指導

- 低栄養症例
（リフィーディング症候群注意）
- ① 経口摂取可能の場合
食事+ONS調整
 - ② 経口摂取不可・経腸栄養可能
経腸栄養剤調整
 - ③ 経口・経腸不可の場合
経静脈栄養調整

※ONS（Oral Nutrition Supplementation）経口的栄養補助

周術期栄養管理（低栄養症例）



周術期栄養管理（術後）

- ① 栄養状態の確認（体重、血液データ）
- ② 必要栄養量の算定と摂取量の確認
- ③ 水分・電解質チェック
- ④ 廃液チェック
- ⑤ 血糖チェック
- ⑥ 輸液調整の相談

- ① 退院時栄養指導
- ② ONS退院処方依頼

手術

経腸栄養
開始

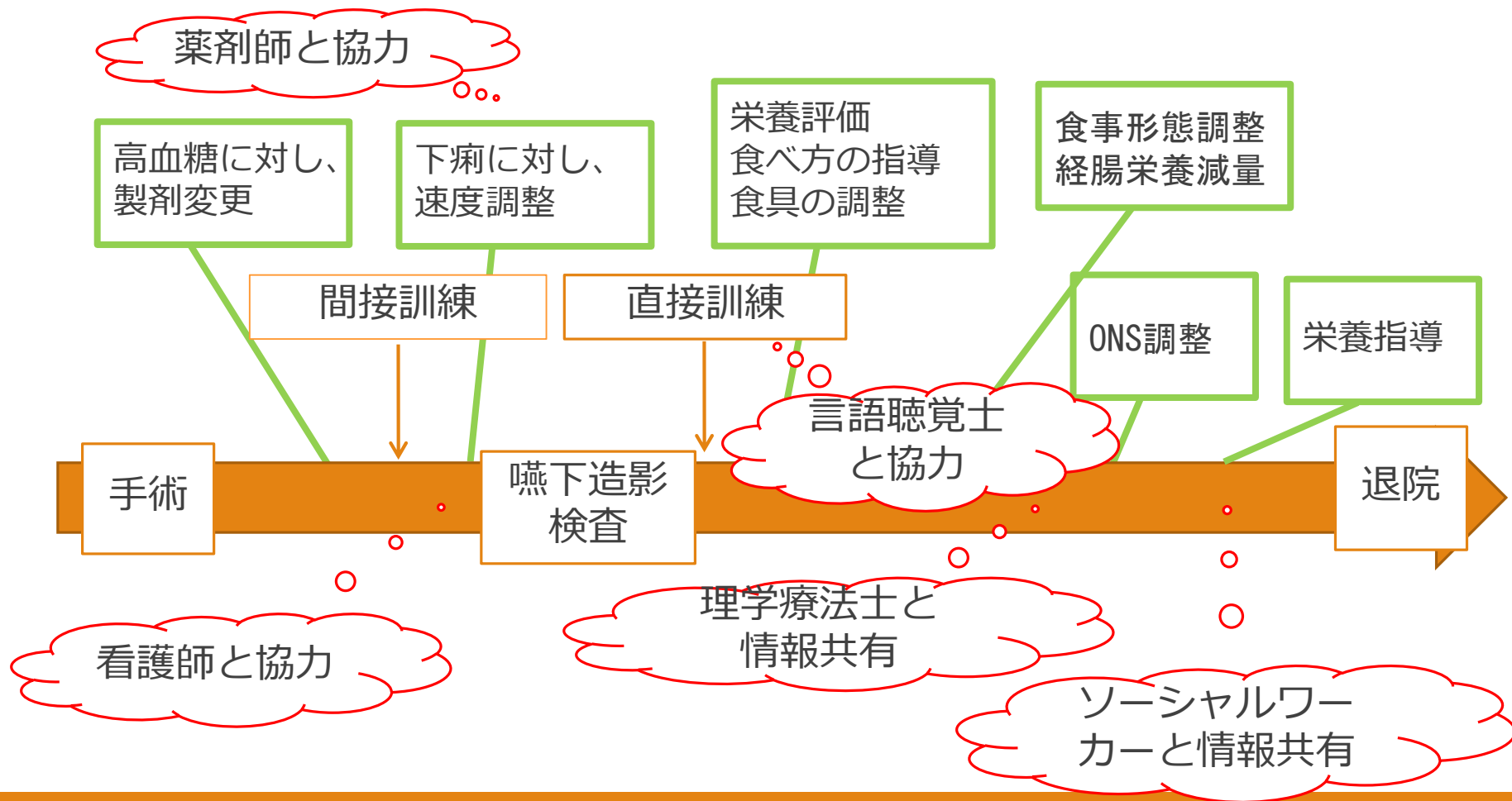
食事
開始

退院

- ① 栄養状態の確認（体重、血液データ）
- ② 必要栄養量の算定と摂取量の確認
- ③ 水分・電解質チェック
- ④ 排便・廃液チェック
- ⑤ 血糖チェック
- ⑥ 栄養剤調整の提案

- ① 栄養状態の確認（体重、血液データ）
- ② 必要栄養量の算定と摂取量の確認
- ③ 消化器症状チェック
- ④ 必要時、食形態の調整
- ⑤ 必要時、食具調整
- ⑥ 不足する場合はONS提案

周術期栄養管理 (経腸・経静脈・経口)



化学療法・放射線療法中の 栄養管理（概要）

- ①必要栄養量の指導
- ②食思不振時の対応の説明

入院

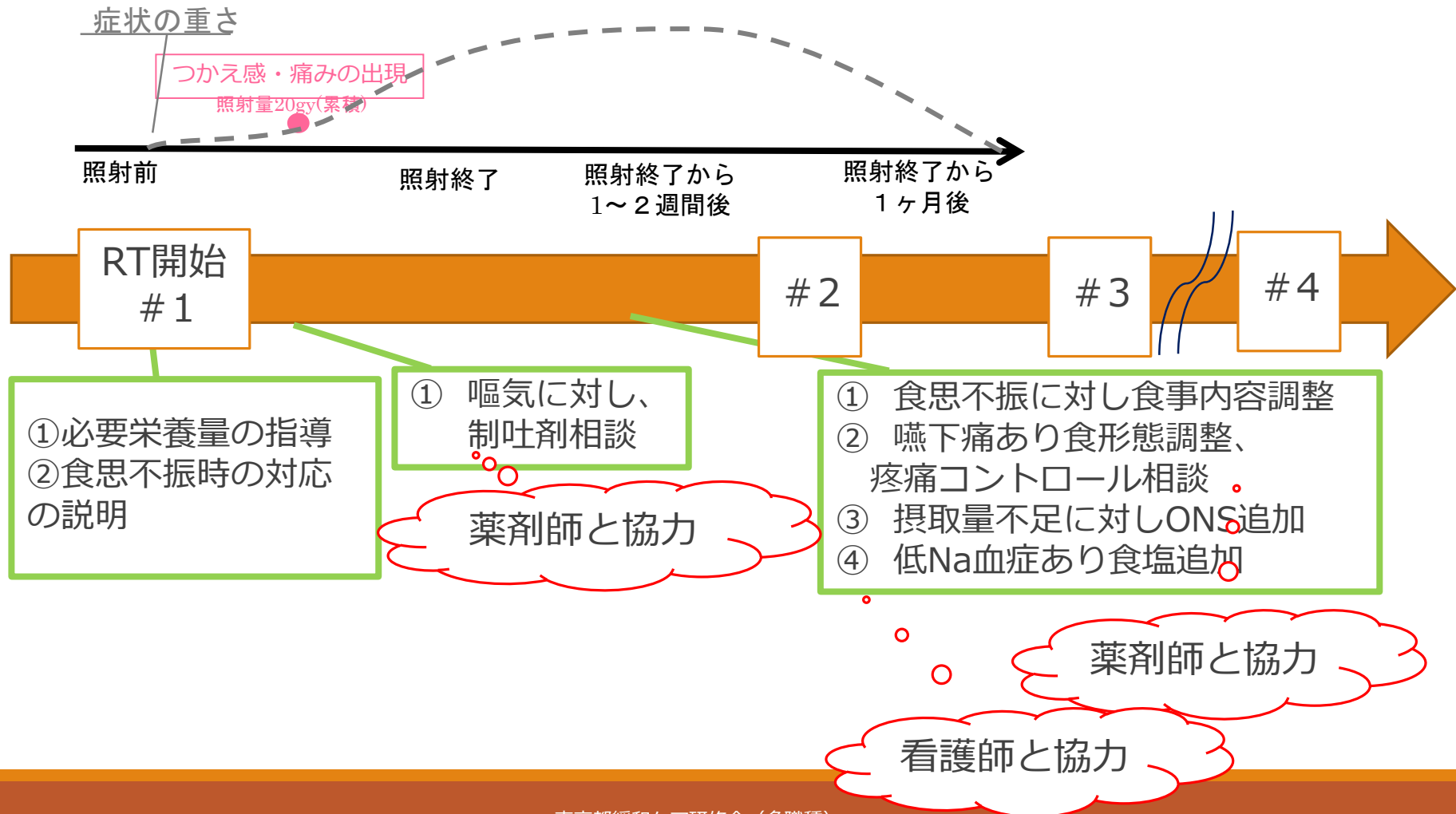
初回
治療

退院

外来治療

- ① 栄養状態の確認（体重、血液データ）
- ② 必要栄養量の算定と摂取量の確認
- ③ 水分・電解質チェック
- ④ 消化器症状チェック
- ⑤ 血糖チェック
- ⑥ 栄養剤調整の提案
- ⑦ 必要時、食形態の調整
- ⑧ 必要時、食具調整
- ⑨ 味覚障害出現ないか確認

化学療法・放射線療法中の 栄養管理（化学放射線療法）



終末期の栄養管理（概要）

- 悪液質の進行を見極める。
- 少しでも食べられる楽しみをサポートする。
食べられないことへの不安を軽減できるように努める。

終末期の栄養管理

多職種で
情報共有

栄養療法実施と評価
患者負担になる場合は中止
不可逆的悪液質なのか検討

家族と相談

食べられないことへのケア
少しでも食べたい気持ちへのサポート

なぜ栄養摂取ができないのか、
改善しないのか検討
器質的なもの？
副作用によるもの？
食事環境によるもの？

医師へ確認

薬剤師と協力

看護師と協力

臨床心理士
と相談

まとめ

- 各ステージで管理栄養士はかかわることができ、がん患者の栄養改善や治療サポートが可能。
- 食事だけではなく経静脈栄養、経腸栄養、栄養摂取に関わる病態や薬剤などについてアセスメントすることが大切。